



Kringle
Pharma

2020年3月2日

各位

クリングルファーマ株式会社は9億5千万円の第三者割当増資を実施しました

クリングルファーマ株式会社(本社:大阪府茨木市、代表取締役社長:安達喜一)は、第三者割当増資を実施し9億5千万円を調達しました。今回の割当先は、既存株主である日本全薬工業株式会社、慶應イノベーション・イニシアティブ1号投資事業有限責任組合、DBJキャピタル投資事業有限責任組合、THVP-1号投資事業有限責任組合に加えて、新たに東邦ホールディングス株式会社、サイバニクス・エクセレンス・ジャパン1号投資事業有限責任組合、エムスリー株式会社、POCクリニカルリサーチ株式会社、他1社が株主となりました。

当社は、肝細胞増殖因子(Hepatocyte growth factor: HGF)の組換えタンパク質の医薬品開発を行っています。HGFは生体内の再生修復因子であり、様々な難治性疾患の画期的な治療薬となる可能性を秘めています。当社は現在、神経難病(脊髄損傷急性期、筋萎縮性側索硬化症(ALS))を対象とする国内での臨床開発に注力しており、今回の増資による調達資金は、主に脊髄損傷急性期を対象とする第Ⅲ相試験の準備と実施、および製造販売承認申請を見据えたHGFタンパク質のGMP製造、プロセスバリデーション等のために使用し、HGFタンパク質性医薬品の開発をさらに加速推進いたします。当社は、HGFタンパク質性医薬品の社会実装を通じて新たな価値を創造し、人々の健康と幸せに貢献してまいります。

クリングルファーマ株式会社について <http://www.kringle-pharma.com/>

大阪大学発創薬ベンチャーとして2001年12月に設立され、HGFによる新規バイオ医薬品の開発・実用化を目指しています。現在、組換えヒトHGFタンパク質について、1)脊髄損傷急性期(第Ⅰ/Ⅱ相試験終了)、2)ALS(第Ⅱ相試験(医師主導治験)実施中)、3)急性腎障害(第Ⅰaおよび第Ⅰb相試験終了)、4)声帯癬痕(第Ⅰ/Ⅱ相試験(医師主導治験)終了)の治療薬として開発を進めています。

脊髄損傷治療では、急性期の損傷範囲拡大(二次損傷)を抑えることが、その後の機能回復に極めて重要であるとされています。HGFタンパク質性医薬品は、脊髄損傷患者の受傷直後(急性期)から投与可能な医薬品であり、その医療上の意義は極めて高く、早期開発が求められる医薬品です。

問合せ先

松浦 裕

クリングルファーマ株式会社

取締役経営管理部長

☎ 072-641-8739

✉ kpinfo@kringle-pharma.com